薬用植物園だより

2025年 11月

長寿を祈る重陽の節句で菊を楽しむ

シマカンギク（キク科）

Chrysanthemum indicum Linné

部位　頭花
生薬名　菊花（キッカ）局方収載
成分　ルテオリン（フラボノイド）、
キッカノール（セスキテルペン）　など
薬理　抗菌作用、抗ウイルス作用、抗炎症作用など
薬能　辛涼解表薬、平肝明目
漢方　杞菊地黄丸、釣藤散、清上蠲痛湯など

日本の近畿地方以西、朝鮮半島、台湾、中国に分布する多年草。日当たり良い山地、丘陵地の道端などで見られます。３月３日の桃の節句（上巳の節句）や５月５日の菖蒲の節句（端午の節句）のように、９月９日は菊の節句（重陽の節句）として長寿を祈る行事で、菊は四季を彩る五節句の植物の一つです。新暦では１0月中旬から10月下旬にあたります。菊の花を浮かべた菊酒を楽しみながら栗やマツタケなどの秋の味覚で長寿を祈りたいですね。薬用では、花（頭花）を菊花と呼び、視力の減退やかすみ目などに用いる杞菊地黄丸や頭痛、ふらつき、高齢者の高血圧症に用いられる釣藤散などに配合されます。日本薬局方では、本種とキク *Chrysanthemum morifolium* が原植物として収載されていますが、日本では、前者を主に菊花として用い、後者は抗菊花と呼び区別されます。本園には両種を並べて展示していますので、観察してみてください。

ナギナタコウジュ（シソ科）

アイヌ民族のハーブティーにも利用

Elsholtzia ciliata (Thunb.) Hyl.

部位　全草
生薬名　香薷（コウジュ）
成分　カルバクロール（モノテルペン）、フラボン配糖体
薬理　抗酸化作用、抗炎症作用、抗菌作用、抗ウイルス作用
薬能　祛暑薬
漢方　香薷飲など　　漢方以外ではハーブティなどに使用

日本各地、アジア東部の温帯から熱帯、モンゴル、中国、ロシアに分布する草丈20～50cmほどの一年草。９月～10月にかけて咲く紅紫色の花は、写真の様に片方だけに向いて咲きます。その姿をナギナタに例えたことが和名の由来です。山麓、野原、道端などで見かけ、全草に香気があります。アイヌ語で「セタエント」と呼び、お茶にしたり、お粥に入れたりするアイヌの伝統野菜としても知られています。薬用では、全草を香薷（コウジュ）と呼び、暑気払いの薬（祛暑薬）で、熱中症などを改善する作用を期待し、漢方薬に配合します。同類の生薬には、藿香（かっこう、パチョリの全草）、緑豆（りょくず）やスイカの果肉や果汁の西瓜（せいか）などがあります。

ホームページでも
ご覧いただけます

発行：大阪医科薬科大学 薬用植物園　Osaka Medical and Pharmaceutical University Medicinal Plant Garden